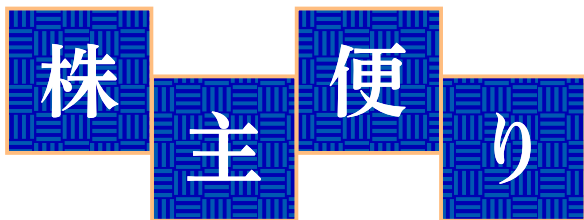


証券コード：5491



第119期
2026年3月期



毎年3月・9月発行

Contents

P1 トップメッセージ

P3 トピックス

P6 業績ハイライト

P7 会社概要・株主メモ



人と地球にやさしい新たな価値を共創する Multi & Hybrid Material 企業

“NIPPON KINZOKU 2030”への新たなステージが始まる。
進化する社会のニーズを見据え、未来を拓く日本金属へ。



日本金属株式会社

トップメッセージ



取締役社長 下川 康志

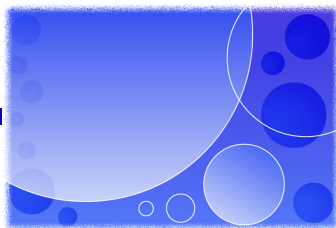
株主の皆様には、日頃より格別なご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
「株主便り2025年9月号」をご高覧いただくにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

2026年3月期第1四半期の業績について

2026年3月期第1四半期は、生成AI普及に伴うデータセンターや電力インフラ、半導体設備の増強などに関連し、電子機器向けステンレス、送電設備向け極薄電磁鋼帯、半導体関連向けファインパイプや異形圧延製品（ファイン・プロファイル®）などが好調に推移しましたが、ステンレス自動車モール材は中国向け輸出の落ち込みが続いております。また、米国の関税影響が予測しづらいこともあり、自動車関連ユーザーなどは、実需より発注量を抑制しながら様子見しており、受注量が想定より下振れました。

その結果、第1四半期連結累計期間の売上高は前年同期比438百万円（3.4%）減収の12,584百万円となりました。損益面につきましては、みがき帯鋼事業の収益を大幅に改善したことで、営業利益は153百万円（前年同期は156百万円の損失）、経常利益は148百万円（前年同期は95百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9百万円（前年同期は134百万円の損失）となりました。

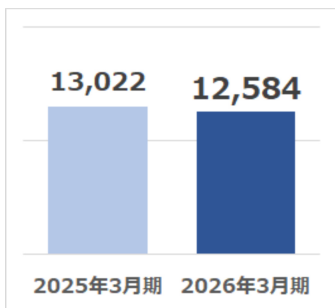
みがき帯鋼事業におきましては、電池、コネクタなどの電子機器用途、精密機械用途などの需要が回復しましたが、主力製品である自動車関連用途では、中国向けの光モール用途が低迷したことで、当第1四半期連結累計期間のみがき帯鋼事業の売上高は、前年同期比109百万円（1.0%）減収の10,419百万円となりました。損益面につきましては、高収益品の増販、生産効率の改善、販売価格の是正などにより、営業利益は前年同期比170百万円（185.7%）増益の262百万円となりました。



2026年3月期第1四半期の連結業績

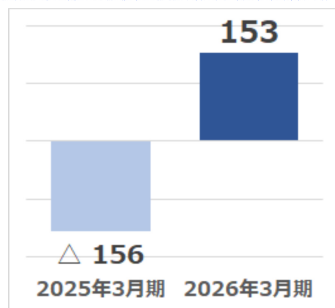
連結売上高

単位：百万円



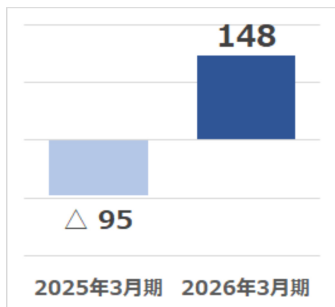
連結営業損益

単位：百万円



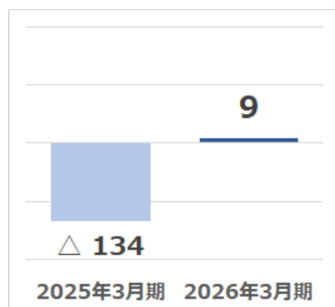
連結経常損益

単位：百万円



連結当期純利益

単位：百万円



加工品事業におきましては、岐阜工場取扱製品にて自動車関連用途や文具関連用途などが回復しましたが、福島工場取扱製品にて主力製品であった自動車駆動部品用高精度異形鋼が自動車電動化の影響を受けた需要家の購買方針により2025年3月期の契約で終息したため、当第1四半期連結累計期間の加工品事業の売上高は、前年同期比329百万円（13.2%）減収の2,164百万円となりました。

継続する厳しい経営環境に対応するため、2025年4月1日付で生産本部と開発・営業本部を製販本部に統合、管理本部、技術本部の3本部に削減するとともに、取締役2名減とスリム化し、製販一体強化と経営判断・実行の加速を進めております。また、製販本部製販企画部門に「プロダクションプロセス・サポート部」を新設、日本金属と日本金属グループ、取引先各社の有する多種多様な加工機能とサービス機能のネットワークを最大限活用し、あらゆる試作や受託のニーズに対し、日本金属の総力をあげ、「ものづくり」をサポートするとともに、日本金属の認知度とビジネス・チャンスの拡大に取り組んでおります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第118期定時株主総会を開催しました

2025年6月27日(金)に当社本店（板橋工場）にて、第118期定時株主総会と株主懇談会を開催いたしました。今年も昨年に引き続き板橋工場での総会開催となりました。

株主総会には19名の株主様が来場し、定款の定めにより取締役社長の下川が議長となって118期（2025年3月期）の経営成績や決算の内容などについて報告を行いました。その後の決議事項の採決では、全議案が可決され、閉会となりました。

ご出席いただいた皆様、議決権を行使いただいた皆様、誠にありがとうございました。

決議通知

（当社ホームページ）



◆株主総会での質問と回答（概要）

・現状を打破するための今後の戦略について

【回答】第11次経営計画（2020年度～2029年度）に則り、新事業アイテム獲得に向け今までに種まきしていたものが、本年度後半から徐々に刈り取れる予定であり、新エネルギー車などの新たな用途をしっかりと捕捉してまいります。



株主総会後には株主の皆様当社への理解を深めていただき、また、当社役員との対話を促進する場として株主懇談会を開催し、13名の株主様が出席されました。

第一部では当社のカーボンニュートラルに貢献する製品・技術であるエコプロダクトの紹介や、新サービス『試作・委託加工サポート受付』についての説明を行いました。第二部では、取締役を交えての質疑応答が行われ、海外現地企業との価格差や、エコプロダクトのひとつとして紹介されたFI仕上の用途について、株主様からご質問をいただきました。

◆役員（2025年8月31日現在）

取締役社長 下川 康 志
（代表取締役）
専務取締役 原田 喜 弘
常務取締役 山 崎 修

社外取締役（独立役員）
社外取締役（独立役員）
社外取締役（独立役員）
常任監査役（常勤）
社外監査役（独立役員）
社外監査役（独立役員）

小 川 和 洋
永 塚 良 知
假 屋 ゆう子
山 下 匡 史
砂 山 晃 一
麓 原 一 晃

役員／組織
（当社ホームページ）



三機工業株式会社と業務委託契約を締結しました

2025年8月1日、当社は三機工業株式会社様（本社：東京都中央区、代表取締役社長：石田博一、証券コード：1961、以下「三機工業」）と散気装置の製造業務委託契約を締結しました。

三機工業には、これまで超微細気泡散気装置「エアロウイングII」の据え付け架台レール用として、当社製ステンレス・フォーミング製品をご採用いただいております。本フォーミング製品は、第11次経営計画「NIPPON KINZOKU 2030」のビジョンに沿い、Near Net Shape（＝最終製品形状に近い複雑な成型加工を実現）をキーワードにお客様の要望する形状を実現した製品です。

その開発力と製品実績が評価され、「エアロウイングII」本体の製造業務につきましても協業に関する検討・協議が進められ、製造業務委託契約の締結に至りました。なお、製造業務は当社福島工場（福島県白河市）にて行います。

詳細はこちら（プレスリリース）

<https://www.nipponkinzoku.co.jp/assets/images/2025/08/20250827-Press-Release.pdf>

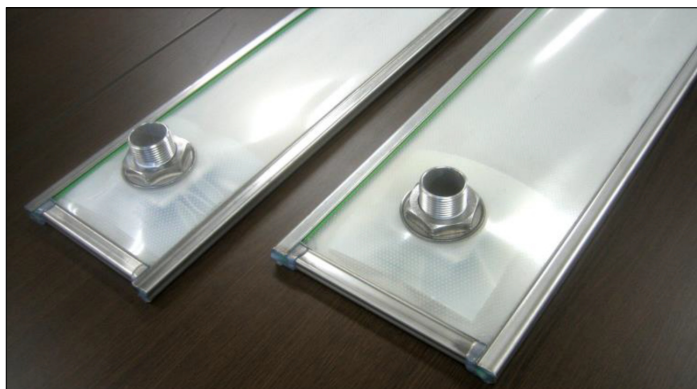


◆「エアロウイングII」について

「エアロウイングII」は酸素移動効率を大幅に向上させた省エネルギータイプの散気装置であり、優れた性能と信頼性を兼ね備えた製品として多くの下水処理場で採用されています。加えて、三機工業の戦略商品に位置付けられており、今後の市場展開においても重要な役割を担うことが期待されています。

詳細はこちら（三機工業ホームページ）

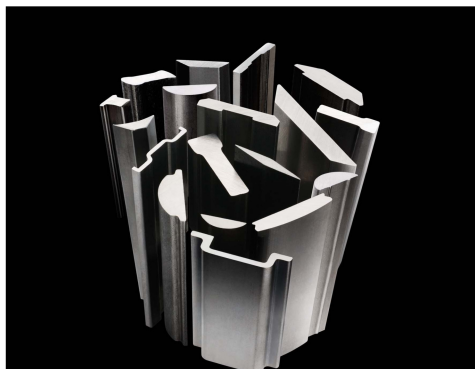
<https://www.sanki.co.jp/service/technology/article/detail093.html>



「エアロウイングII」（三機工業ホームページより）

線材を使用した異形圧延技術の開発に着手しました

当社は、線材を素材とした「Fine Profile®（ファイン・プロファイル®）」の開発に着手しました。ファイン・プロファイル®は、非鉄・鉄系金属を独自の圧延技術によって幅方向に板厚が異なる異形断面形状へ連続的に加工した製品の総称で、切削や研削など様々な加工の代替手段としてお客様の工程削減、製造コスト削減、歩留向上などに貢献しています。ファイン・プロファイル®は、素材として主に帯鋼（鋼板をコイル状に巻いた鋼材）を使用していたが、帯鋼では入手可能な鋼種が限られ、また、素材切断時の品質・技術的な影響により成形範囲に一部制限がありました。



ファイン・プロファイル®の例

ファイン・プロファイル®はお客様での切削工程省略により省資源化に貢献することから、当社独自基準の環境配慮製品「エコプロダクト」に認定しています。対応鋼種や成形範囲の拡大によってお客様の採用が増えることで、カーボンニュートラルの実現に貢献することができるため、当社では新たなファイン・プロファイル®の創出に向けた取り組みとして、2026年度の製品化を目標に、線材を素材とした開発に着手しました。

詳細はこちら（プレスリリース）

<https://www.nipponkinzoku.co.jp/assets/images/2025/07/20250724-Press-Release.pdf>



新設部署「プロダクションプロセス・サポート部」が多くのお客様からご好評です



試作・委託加工サポート受付

今年4月にスタートした、試作・サンプル・委託加工を請け負う専門部署『プロダクションプロセス・サポート部』ですが、当社ホームページ上での『試作・委託加工サポート受付』の開設やお問い合わせフォームのリニューアルなどもあり、大変多くのお問い合わせをいただいております。今後も国内外へのプレスリリースの発信やお取引先様へのメールマガジン配信、ホームページの改善などを通じて、認知度の向上とビジネス・チャンスの拡大に取り組んでまいります。



お問い合わせ先：プロダクションプロセス・サポート部

TEL：03-5765-8113 <https://www.nipponkinzoku.co.jp/contact-pp-support>

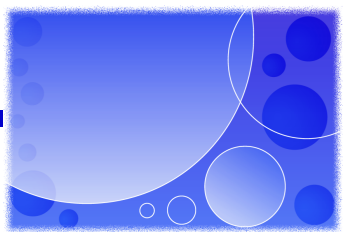
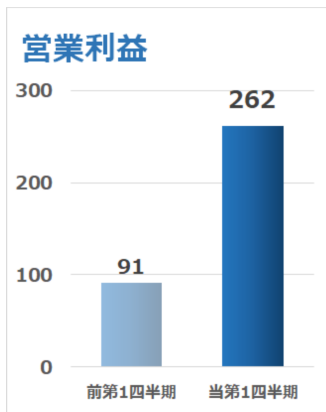
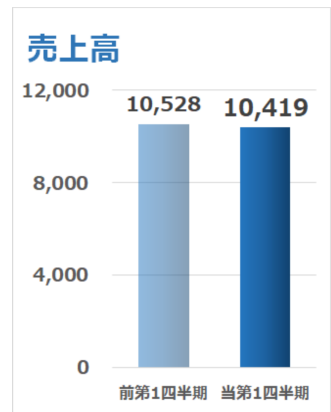
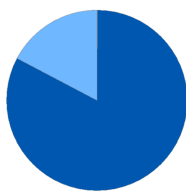


第 1 1 9 期第 1 四半期業績ハイライト

◆みがき帯鋼事業

売上高比率

82.8%

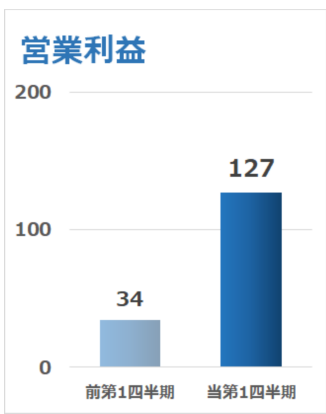
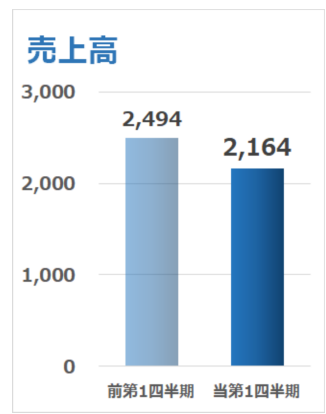
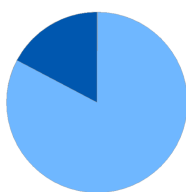


電池用途やコネクタ用途、精密機械用途などの需要が回復しましたが、主力製品である自動車関連用途では、中国向けの光モール用途が低迷したことで、当第1四半期連結累計期間のみがき帯鋼事業の売上高は、前年同期比109百万円（1.0%）減収の10,419百万円、営業利益は前年同期比170百万円（185.7%）増益の262百万円となりました。

◆加工品事業

売上高比率

17.2%



岐阜工場取扱製品にて自動車関連用途や文具関連用途などが回復しましたが、福島工場取扱製品にて主力製品であった自動車駆動部品用高精度異形鋼が自動車電動化の影響を受けた需要家の購買方針により終息したため、当第1四半期連結累計期間の加工品事業の売上高は、前年同期比329百万円（13.2%）減収の2,164百万円、営業利益は前年同期比93百万円（271.1%）増益の127百万円となりました。

会社概要・株主メモ

◆会社概要 (2025年6月30日現在)		◆株主メモ	
創 業	1930年11月10日	事 業 年 度	毎年4月1日から
設 立	1939年12月2日		翌年3月31日まで
本 店 所 在 地	東京都板橋区舟渡四丁目10番1号		の1年
本 社 事 務 所	東京都港区芝五丁目29番11号 G-BASE田町10・11階	定時株主総会	毎年6月
	電話 (03) 5765 - 8111 (大代表)	株主名簿管理人	東京都千代田区
資 本 金	68億5千7百万円		丸の内一丁目3番3号
連結従業員数	839名		みずほ信託銀行
当社従業員数	568名		株式会社

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主 配当金受取方法の 変更等)	お取引の証券会社等 になります。	当社の特別口座の口座管理機関みずほ信託銀行へお問い合わせ願 います。 〒168-8507東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
未払配当金の お支払	右記みずほ信託銀行 までお問い合わせ願 います。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株主総会資料の電 子提供制度(書面 交付請求)につい てのお問い合わせ	お取引の証券会社ま たは右記みずほ信託 銀行までお問い合わせ せ願います。	ホームページ https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html 電子提供制度専用ダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
ご注意		特別口座では、単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続きを行っていただく 必要があります。



単 元 株 式 数	100株
公 告 方 法	当社のホームページ (https://www.nipponkinzoku.co.jp) に掲載します。ただし、 事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合 は、日本経済新聞に掲載します。
上 場 取 引 所	東京証券取引所スタンダード市場